

かなえ

発行 飯田市 飯田市 公民館
編集 飯田市 公民館 広報委員会 TEL. 0265-22-1284

くら ぼね 鞍骨古墳を現地学習

ナゾとき探偵団 地域を学ぶ



世代を越えて
みつめなおすふるさと

県図書館 長谷部陽菜

ふるさと学習の一環として、県図書館と県公民館が共同で企画した「県ナゾとき探偵団」。令和3年度から始まって、今年で4回目となります。

中学生から募集した県のナゾを、中学生と大人の団員が一緒に調査していきます。当館としては、参考文献の選び出しと助言をします。今年「鞍骨古墳には誰が埋葬されているのか」「県はいつから10地区になったのか」という二つのナゾを、中学生4名と大人2名で調査しました。現地調査では、鞍骨古墳や上溝天神塚古墳を実際に見て、古墳について理解を深めました。また茶屋町の歴史についてお話を聞きました。ふるさとの魅力を再発見する機会になりました。

中学生から募集した県のナゾを、中学生4名と大人2名で調査しました。現地調査では、鞍骨古墳や上溝天神塚古墳を実際に見て、古墳について理解を深めました。また茶屋町の歴史についてお話を聞きました。ふるさとの魅力を再発見する機会になりました。

えんじくぞい

「ありがとう」という言葉は「有ること」が「難しい」という意味で「有難い」が元の形となっているようです。滅多にないこと、貴重な出来事に対しての感謝の言葉となり一般的なお礼の言葉として使われるようになりました。

先日テレビで、ある夫婦間の手紙のやりとりを放送していました。そこには「ゴミ出しをしてくれてありがとう」「ご飯を作ってくれてありがとう」など普段の生活でのサポートのなげない行動に対しての「ありがとう」が記されていました。

とても素敵な手紙だなと感じると同時に、自分は普段の生活で周りの人に感謝しながら生活できているだろうか？とふと思いました。

周りの人のなげない行動や言葉を当たり前のように受け入れて感謝の気持ちが薄れているように感じ、何かに気付かされた気がしました。

皆さんも普段の生活の中の「ありがとう」を探してみてください。

(名古屋 K・O)

風雨ニモマケズ 3,000人が来場

ふるさと県ふれあい広場・文化祭

荒天の中 大きくにぎわう

11月2・3日

文化委員長 林 篤史

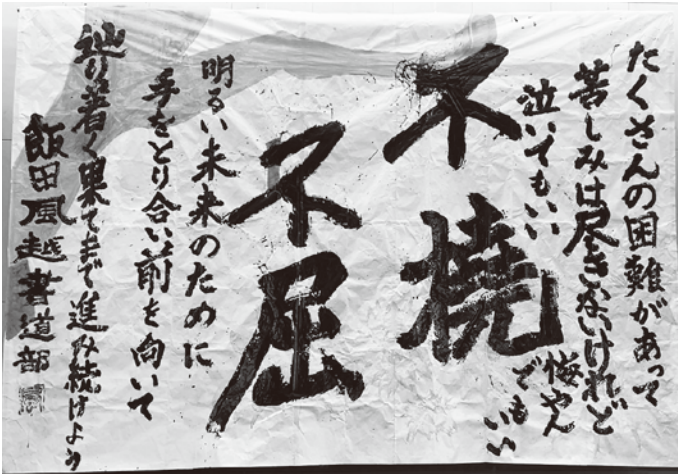
今年度のふるさと県ふれあい広場・文化祭は風雨の中での開催となりましたが、大勢の皆様にご来場いただくことができました。

初日は大雨で模擬店は中止、2日目は晴天となつて一安心…と思いきや、強風によりテントが煽られるといったアクシデントもありましたが、皆様

のご協力で臨機応変に行事を進めることができました。書道とダンスのパフォーマンス、太鼓祭り、各分館や団体の展示とウォークラリー、音楽の祭典、ドリームかなえくじと、2日間盛りだくさんで楽しんでいただけました。

開催にあたり、本館・各分館役員の皆様、ま

ちづくり委員会の皆様、出演・出店された団体の皆様、鼎中ボランテ



飯田風越高校書道部

IAの生徒さん、大変お世話になりました。今後も鼎地区の文化の発展を目指して、文化委員会事業に取り組みます。



ダンスパフォーマンス



マールキッズ展示



アルプスマジッククラブ



アマチュア無線クラブ



音楽の祭典



茶屋町太鼓鼎



明星ちびっこ太鼓

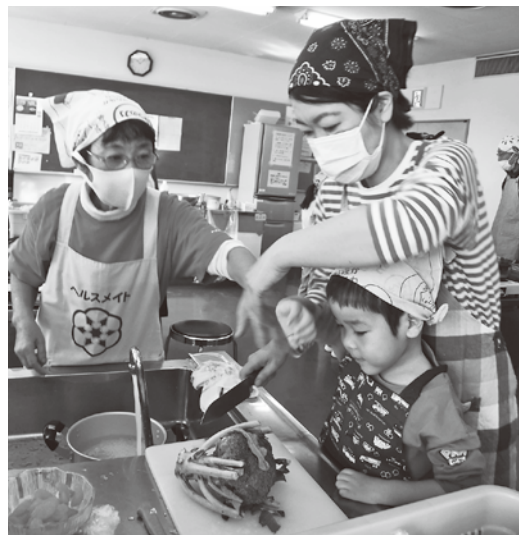
第22回県の景観写真コンテスト



最優秀賞 「名古屋獅子奉納」 唐澤 聖

入賞 / 名前《タイトル》
最優秀賞 / 唐澤 聖 《名古屋獅子奉納》
優 秀 賞 / 加藤 優治 《雪の食事場》
優 秀 賞 / 尾澤 一郎 《鼎に架ける虹の橋》
公民館長賞 / 筒井 崇博 《家内安全・無病息災》
審査委員賞 / 戸崎 道夫 《ワッショイ》
応募点数 20点 (応募者数 11名) 今年度も文化祭来場者に 投票して頂き、審査員評価 も合わせて決定しました。 (投票数332)

親子料理教室



食生活改善推進協議会
長沼やえ子

11月9日、鼎公民館で親子料理教室を開催しました。総勢22名の方が参加しました。メニューはこうや豆腐のカツサンド・地元野菜のカレースープ・ブロッコリーとエリンギのごま酢和え・さわやかクレープでした。地元食材の料理教室です。

こうや豆腐は全国の9割を生産しているのは長野県です。また、ぶなしめじの人工栽培の先がけは飯田市上郷です。

調理後、保護者からは、「楽しく参加できた。一緒に作るよい思い出になりました。新しいメニューを知ることができて良かった」と感想をいただきました。

親子料理教室は親子で作って食べるだけでなく郷土料理を次の世代へ伝えるために行っています。食生活改善推進協議会では皆さんといっしょにこの活動を進めておりますので、機会があれば是非参加してみてください。

華甲大学 徳川美術館など見学

華甲大学運営委員長
西塚 孝義

高齢者学級華甲大学は年9回講座を行いその内1回は一日研修を行っております。本年は自然災害が多いことから防災センターの見学を主として計画いたしました。

10月11日総員31名、出発時はくもり空でしたが、しだいに秋晴れの良い天気となり一路名古屋市港防災センターへ向いました。防災センターでは職員の方から館内の説明を受けた後震度7の体験、伊勢湾台風の記録や津波のシミュレーション映像、煙避難体験等を行いなが

華甲大学では年会員の他にその都度の方も聴講できますので是非ご参加ください。



学びは宝で

下山 鈴木利治さん(81歳)



下山にお住いで、多趣味で人生を謳歌されている鈴木利治さんをご紹介します。

鈴木さんは、下山区で長年理事役員を担われ、最終的には区長として下山区の運営に尽力されました。

区長退任後には、空いた時間の有効利用をと、長野県シニア大学に入学され、パソコン水墨画などを学ばれました。

その後、平成30年の「伊那十二薬師宝曆庵御開帳」を控え、奉替会会長に就かれた際、パソコンを活用して概要をわかりやすくマニュアル化し、ネット配信もされました。

また「一八会」という厄除け会の活動内容や旅

行の写真などをその都度編集してパソコンに残されています。

「騎龍観世音菩薩」の水墨画を下山区の文化祭をはじめ、鼎ふれあい文化祭などには作品を出展されています。さらに、マジックをはじめ、皿まわし、南京玉すだれ等の芸を披露され会場を沸かせています。

新たなことに挑戦され、スキルを身につけそれを活用されていることに感心させられてしまいます。今後もそれらを継続しつつ、元々の趣味でもあるウォーキング、園芸を楽しんでいただけたらと思います。

(取材：浅井睦人)

かなえびと

No.57

今年一年間を振り返ってみると実にさまざま出来事がありました。1月1日の能登半島沖地震に始まり記録的な猛暑、各地での豪雨等があり、その一方で海外に目を向けると各国での侵攻紛争等の暗いニュースが毎日のように報じられていました。

しかし、その一方でコロナの5類移行に伴い観

編集後記

ぼくがいまいっしょけんめい取りくんではいることは、ラグビーです。ぼくは、ラグビーを保育園のときにお父さんにつれられていつてみてラグビーをはじめました。ぼくは、1月に行われ、全国大会に向けて毎

光地では以前のよう賑わいが戻りつつあり、身近な地域でも春祭りから秋祭り、花火大会等のイベントも復活してきて人の交流も少しずつ増えてきて活気に満ち前向きになれる明るいニュースもありました。



切石 西

直 飛(6年生)

ぼくが取りくんではいること

週火、金、土曜日に仲間と、一緒に練習しています。

ぼくが大切にしている言葉は、「One for all All for one」という言葉です。

この言葉は、「一人は全員のために、全員は一つの目標のために」という意味です。

ぼくは、ラグビーで鼎をもりあげていきたいです。



No.131